

2012年3月8日

環境社会配慮助言委員会委員長 村山武彦

担当ワーキンググループ主査 武貞稔彦

インドネシア国 「ジャカルタ都市高速鉄道東西線事業」

(協力準備調査(有償))

ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

- ワーキンググループ会合
- 日時：2012年2月10日(金) 14:00～17:03
- 場所：JICA 研究所(会議室：2階 203 会議室)
- ワーキンググループ委員：作本委員、武貞委員、谷本委員、松行委員(松行委員はメール審議にて参加)
- 議題：インドネシア国 ジャカルタ都市高速鉄道東西線事業に係るドラフトファイナルレポートに対する助言案作成
- 配布資料
 - 1) ドラフトファイナルレポート(DFR)
 - 2) EIA 報告書(ドラフト)
 - 3) 用地取得・住民移転計画(ドラフト)
 - 4) スコーピング助言対応表
- 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第22回委員会)

- 日時：2012年3月2日(金) 15:30～18:30
- 場所：JICA 本部(会議室：2階 229 会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体

1. ドラフトファイナルレポート（以下 DFR）では SEA の議論が見られないが、DKI が SEA（KLHS）を実施予定なのか確認し DFR に反映すること。

スコーピング案

2. DFR7 章について、被影響世帯数については、スコーピング前の段階の初期調査結果なのか、またはスコーピングを受けた後の Inventory 調査の結果であるのかを区別して記述すること。
3. 掘削工事における地盤沈下に加えて、地下水流の変化についても把握し DFR に可能な範囲で反映し、必要ならば詳細設計以降の実施段階で対策を講じること。

環境配慮（汚染対策、自然環境等）

4. DFR においては大気汚染状況一般の説明と測定データ結果の説明を行うこと。
5. 土壌については、DFR において重金属及びその他有害物質の基準値に従った記述にすること。なお、設計段階では、より広範囲にサンプリング調査を実施し、特に重金属についての分析をすること。
6. 工事期間中に発生する廃棄物については、適切に処理すること。特に、大量に水分を含む掘削土砂の運搬では、周辺への飛散を防止するため、事前に脱・除水などの処理を講じること。
7. 工事で使用される土砂や石材については、詳細設計以降の実施段階において土取り場・採石場の環境に十分配慮すること。

社会配慮

8. DFR における貧困関連の調査結果の記述については、貧困の判断基準や貧困者の定義をきちんと確認すること。
9. 住民移転・補償計画の実施に当たっては、インドネシアにおける過去の同種事業の経験を十分に踏まえるとともに、移転住民の生活再建には中長期的な期間を要し、当初想定していなかった事態が起きることを前提として、移転後の住民からの要望や申し出に柔軟に対処することを、事業関係者の共通理解とすること。